

第2回 町田市下水道事業計画評価委員会 議事要旨

日 時：2024年2月16日（金）10：00～11：40

場 所：町田市成瀬クリーンセンター 3階 大会議室

出席者：委 員 長岡 委員（会長）、市古 委員（副会長）

鵜川 委員、大久保 委員、大塚 委員、入山 委員

石田 委員、神保 委員

事務局 守田（下水道部長兼下水道整備課長）、西澤（下水道経営総務課長）、

西澤（下水道管理課長）、込山（下水道管理課 担当課長）、

松井（水再生センター所長）、

布施（水再生センター 担当課長）、小林（水再生センター 担当課長）

下水道経営総務課 金子、北原、古賀（舞）

結城、古賀（剛）、高橋、田中

下水道整備課 北原、宮澤、村上、白岩

下水道管理課 大植、鈴木、若林、渡邊

水再生センター 宮川、小幡、井上、森、村野、田邊、齊藤

佐藤、木我、宮田、宮崎

傍聴者： 0名

次 第：（1）開会

（2）【議題1】第1回評価委員会の確認事項について

（3）【議題2】「令和4年度（2022年度）町田市下水道事業会計決算」に係る
経営分析・評価内容（他市比較結果・分析）の報告

（4）【議題3】経営分析及び評価をふまえた今後について

（5）その他

資 料：事前配布

【資料1】

第1回評価委員会の確認事項について

【資料1－（2）】

「未来につなぐ下水道事業プラン」【2023年度事業進捗状況・中間確認】

【資料2】

「令和4（2022）年度下水道事業会計決算」に係る経営分析・評価内容（他
市比較結果・分析を含む）

当日配布

『第2回 町田市下水道事業計画評価委員会 次第』

(1) 開会

事務局から、本委員会の進め方について説明を行った。

(2) 【議題1】第1回評価委員会の確認事項について

第1回町田市下水道事業計画評価委員会での指摘事項について、事務局から説明を行った。

■主な質疑・応答

- 未接続家屋への污水管接続普及啓発指導に関して、再啓発に適した時期についての知見があれば聞かせていただきたい。
→個々の事情が変化することがあるので、把握している家屋の状況を再度現場で確認しながら見定めたいと思っている。

(3) 【議題2】「令和4年度（2022年度）町田市下水道事業会計決算」に係る経営分析・評価内容（他市比較結果・分析）の報告

【議題2】「令和4年度（2022年度）町田市下水道事業会計決算」に係る経営分析・評価内容について、事務局から報告を行った。

■主な質疑・応答、意見

- 「流動比率」は低くても特に問題ないか。
→「流動比率」は短期の経営の安定性を見る指標。3月末で出た数字が多少低くても、企業の特長として毎月安定的な収入があり、企業債を償還するタイミングで資金が貯まっていれば耐えられると考えられるが、決して安心できる数字ではないため、改善が必要である。
- 経費回収率が100%を切っているというところが、経営の健全化の観点から問題だと思われる。コストは他市と比べ少し安い状況であるため、問題は使用料が他市より安いということになる。政策として定期的に値上げしていくなど示されてはいかがだろうか。
→安定的な使用料収入の確保が1番の課題だと思っている。今回比較対象としているのは、処理場を単独で持って処理をしている市としている。処理場の費用が膨大になるため、そこは近隣市と横並びではなくて検討する時期に入っていると考えている。事務局としても来年・再来年あたりにそういった検討を進めてはどうかと考えている。
- 「管渠老朽化率」について、数字だけ見ていると町田市は「低くて良い」と思うが、投資した時期が遅かったため、10年、20年経つと一気に老朽化していく。可能であれば料金を段階的に上げていき、内部留保をして、集中した交換時期に備えるということを政策的に考えてはいかがだろうか。
→「管渠老朽化率」については急激に上昇することが見込まれる。また一方で、企業債残高については年間約6億円の減少であり、内部留保資金の確保までには至っていない。内部留保を増やすには使用料の改定について、考えていかなければいけない。

- 「管渠改善率」について老朽化がまだ進んでいない中、管渠を改善する必要がないのであれば、右側の欄に追記して評価を「◇…どちらとも言えない」に変えた方がいいのではないのか。

→いただいた意見を、反映させたい。

- 「老朽化」という観点とは別に「耐震化」という観点があると思う。下水道において「耐震化」という面ではどのように考えているか。

→污水管については、重要な幹線等については100%終わった状況だ。雨水については現在耐震診断を行っており、今後必要な箇所を工事していく。

- 能登地震でもマンホールの浮上などが随分あった。重要幹線について耐震化が完了していることを市民へアピールするタイミングでもあると思う。検討していただきたい。

(4)【議題3】経営分析及び評価をふまえた今後について

「【議題3】経営分析及び評価をふまえた今後について」についてディスカッションを行った。

■主な質疑・応答、意見

- 経営分析表の中の「管渠老朽化率」、「管渠改善率」というところでも話題になったと思うが、これから老朽化が進んでいき、当然費用もかかってくる。きちんと管の状況を調べて、管渠の寿命を延ばしていくことを意識するのが重要だ。今後改良工事等が入ってくる予定となっている訳だが、ウォーターPPPの要件をパスしていなければ国費がもらえないといったこともあるので、そのあたりを意識しつつ、今後の運営課題策を進めていっていただきたい。

→計画的に対応を図っていくにあたり、一層そういった視点で取り組んでいきたい。

- 防災の研究者として1月に珠洲市、輪島市に調査し、下水道との関係で印象的だった大きな2点があった。ひとつは輪島市役所でトイレの使用継続ができたことだ。2点目は、液状化被害だ。マンホールが浮き上がっているのが非常に印象的だった。それに関連して、下水道の汚水処理に加えて、雨水の対策、つまり降雨災害の対策の関連で、去年東京都建設局が豪雨対策基本方針を12月に改定し、流域治水においてグリーンインフラを含めた下水の視点から非常に戦略的な提案をされている。能登地震は震災だったが、町田市のリスクとしては気象災害の台風や集中豪雨の対策についても色々取り組んでいくべき可能性があるように感じた。

→流域水害対策について、町田市では浸水被害が多いところを優先的に整備しており、開発等で作った調整池も条件が合えば市に移管していただきそれらの管理も行っている。

- 使用料改定の関連で、場合によっては少し前倒しして議論していくことが必要だと思う。過去のやり取りも参考に、そういう値上げするにあたっての合意を得ていくためのプロセスの在り方も併せてご提案をいただくとよい。

→使用料改定についてはプロセスが大切であり、市民の理解が必要だということで、議会への説明も併せてやっていく形で考えている。老朽化対応に関する周知を始めており、今後料金改定が必要になってくる。説明を丁寧に進めていきたいと思う。

- 今、市民の理解が必要との話があったが、デジタル化による情報発信というのは極めて重要になってくる。それはこの下水道として出来るものか、それとも町田市としてやるものか。

→中身は下水道で考えることになると思うが、市民生活への影響が大きいので、市の広報なども活用しながら取り組んでいく。

- 指標の中に、使用料単価のような指標もあったらよい。

- 使用料の値上げをするのであればどうして必要なのかの説明はしっかりしていただきたい。

→動力費の高騰や、人件費、委託料などすべて値上がりしてきている。また、下水を処理する費用は下水道使用料から賄うという原則がある中で、分流式にかかる経費として一般会計から8億～9億円繰り入れており、足りない部分を市税で補填してもらっていた。この部分を段階的に0にしていくことで下水道事業への税金の負担を減らす代わりに、使用料から財源を確保する必要がある。

- 最初の説明で、人口減少が既定事実として考えられているような話があったと思うが、現状を見ると町田市の人口は予想とは反してまだ増えている。その見直しについて修正を考へてはいないのか。

→人口については、下水道部で独自に予測を立てているものではない。市全体の計画の中で今後見直しがかかったときには修正が入ると思うが、それが下水道事業計画の改定のタイミングで出ていればもちろん採用させていただく。

(5) その他

事務局から、事務連絡を行った。

閉 会